

このページは、Googleで2007年10月28日 07:48:48 GMT に保存された <http://dmnet785.rs.jp.net/bml/dca/dca.htm> のキャッシュです。

Googleのキャッシュとはウェブクロール時に保存したページのスナップショットを指します。

そのため、このページの最新版でない場合があります。こちらから [最新のページ](#) (ハイライト表示なし) を参照してください。

このキャッシュページには、もはや参照できなくなっている画像が含まれている可能性があります。テキストのみのキャッシュページをご覧になるには、[ここをクリック](#)してください。

このページへのリンクやお気に入りの登録には次の URL をお使いください:

<http://www.google.com/search?q=cache:8jn7h4sXeLsJ:dmnet785.rs.jp.net/bml/dca/dca.htm+DCA2000&hl=ja&ct=clnk&cd=1&gl=jp>

Googleはこのページの所有者と何ら提携関係はなく、そのコンテンツについても責任を負いかねます。

ハイライトされているキーワード：**dca2000**

合併症予防にダブルの安心。

DCA2000システムで、**HbA_{1c}**と微量アルブミン検査が可能になりました。

小型HbA_{1c}, Malb/Cアナライザー



医療用具許可番号：13BY6075



今、診ておきましょう。

その場で示される適切なデータに、
患者さんの信頼感も広がります。

HbA_{1c}測定は、糖尿病の患者さんの血糖コントロールの指標として、すでに臨床的に広く用いられています。しかし、従来までは検査室などでしか測定できなかったHbA_{1c}測定を、診察室でもわずか6分で可能にしたのが **DCA2000**システムです。また、微量アルブミンは、長時間持続する高血糖が起因とされる糖尿病性腎症の早期発見、予防のため有用な検査項目として知られています。しかし、今までの尿中微量アルブミン及びクレアチニンの定量検査は、汎用の生化学分析装置が使用されているため、採尿から結果を得るまでに時間がかかりました。**DCA2000**システムでは40μLの尿で微量アルブミン・クレアチニン濃度及びアルブミン/クレアチニン比までをわずか7分で測定できます。病状がまだ把握されていない初診の患者さんや定期的に来院できない患者さん、不安定型糖尿病の患者さんなどの糖尿病合併症の予防や管理、自己コントロールのモチベーションアップにご活用ください。

長期的な血糖コントロール
の指標に

HbA_{1c}

6分 / 1μL

〈特徴〉

- 血液量は、わずか1μL。
- 6分で結果表示。
- HPLC法との相関も良好。
- 日本糖尿病学会グリコヘモグロビンの標準化に関する委員会の指針に準拠。

糖尿病性腎症
の早期発見に

ミクロアルブミン・
クレアチニン

7分 / 40μL

〈特徴〉

- 検体は尿40μL。
- 7分で定量測定。
- 1つのカートリッジで微量アルブミン・クレアチニン濃度を同時に測定。
- 自動計算したアルブミン/クレアチニン比とともに結果を表示。

操作方法



1. 血液を採取 (1μL)



2. キャピラリホルダーの挿入



1. 尿を採取 (40μL)



2. キャピラリホルダーの挿入



3. バーコードを読み取り、機器にセット後、プランジャーを挿入

3. バーコードを読み取り後、
試薬カートリッジを機器にセッ
ト



4. 6分後、結果表示



4. 7分後、結果表示

[このページのトップへ戻る](#)

このページへのお問い合わせ / ご意見はdm-net@ba2.so-net.ne.jpまでお寄せください。
(c) 1997 Soshinsha